

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社 あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい
所在地 (電話番号)	福岡市早良区西入部2-7-20 (電話) 092-803-0381
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 5月 23日

【情報提供票より】(平成 19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	4 人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大賀内科循環器科医院・川浪病院・油山病院・小田耕平歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は海外生活から帰国後に身内(認知症)の介護が必要となったことがきっかけで認知症や障害があっても「一人ひとりがその人らしく穏やかに安心して暮らせる個別ケア」を目指して2年前にグループホームを開設する。室見川沿いの自然豊かな郊外に位置しており、敷地内の畑では四季折々の野菜を職員、入居者が共に育てて食材としており、芝生の庭園には備え付けのテーブルや椅子が配置されて折々にバーベキューを催すなどして利用者、職員が表情豊かにゆったり、のびのびと生活されているのが印象的である。特に「食事は最も大切なもの」と管理栄養士を中心に自家製無農薬野菜や新鮮な乾物類を吟味するなど、毎日の食事が大切にされている。ボランティア(プロのピアノ演奏)は利用者の心に深く響き感動して涙する場面も見られるなど運営者、職員が利用者一人ひとりを大切にされた支援が実践されており、今後更に発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価項目は全職員で検討しており、運営者、管理者、職員は随時改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 評価項目は全職員で検討しており、運営者、管理者、職員は随時改善へ向けて取り組んでいる。家族代表、民生委員、包括支援センター、行政、職員以外に有識者として大学教授の参加や連携医療機関医師、訪問看護ステーション担当看護師などの参加協力で意見交換を行い、意見に基づいてターミナルケアについての講習会を開催するなどサービス向上に活かした取り組みが実践されている。運営者は市町村担当者との連携の重要性を十分認識しているが、共に取り組むまでに至っていないため、市町村担当者へホームの実情を伝えて直面しているサービスの課題解決に向けて共に取り組むことが求められる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ホーム便り「あおい通信」の発行と2ヶ月に1回一人ひとり個別のホーム通信で生活・健康状態、預かり金明細など家族宛に詳細な報告をしている。過去に民生委員を通じて家族の意見の連絡があったことで、その後については、職員は家族の面会時などに意見を聞くように努力している。しかし、家族同士の集まりの場などで意見を表せる仕組みは作っていない。家族会を設けて意見や不満、苦情などを家族が気軽に安心して表せる機会をつくり、意見、苦情を前向きに受け止めて日々のケアに活かしていく取り組みが求められる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会しており清掃作業などの地域活動に参加したり、地域の夏祭り「地藏祭り」行事への参加やホームの敬老会や夏祭り行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど地域住民との交流に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく穏やかに安心して生活できるよう一人ひとりの過去の生活歴や生活習慣を大切に事業所独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで管理者、職員が理念の共有を図るとともに家族面会時に過去の生活習慣など聞きだす努力をして日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入って清掃作業などの地域活動に参加したり、地域の夏祭り「地藏まつり」行事への参加やホームの敬老会や夏祭り行事へ地域の人々の参加を呼びかけるなど地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目は全職員で検討しており、運営者、管理者、職員は随時改善へ向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、包括支援センター、行政、職員以外に有識者として大学教授の参加や連携医療機関医師、訪問看護ステーション担当看護師などの参加協力で意見交換を行い、意見にもとずいてターミナルケアについての講習会を開催するなどサービス向上に活かした取り組みが実践されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市町村担当との連携の重要性を十分認識しているが、共に取り組むまでに至っていない。	○	市町村担当者へホームの実情を伝えて直面しているサービスの課題解決に向けて共に取り組むことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	身元引受人の無い利用者を含め、利用者の家族への権利擁護事業や成年後見制度の活用についての説明ができていない。	○	職員が「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について学ぶ機会をつくるとともに、対応が必要な利用者が活用できるように継続的に支援する仕組みが必要である。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「あおい通信」の発行と2ヶ月に1回一人ひとり個別のホーム通信で生活・健康状態、預かり金明細など家族宛に詳細な報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	過去に民生委員を通じて家族の意見の連絡があり、職員は家族が面会時等に意見を聞くように努力している。しかし、家族同士の集まりの場などで意見を表せる仕組みは作っていない。	○	家族会を設けて意見や不満、苦情などを家族が気軽に安心して表せる機会をつくり、意見、苦情を前向きに受け止めて活かしていく取り組みが求められる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、新規職員採用時に経験豊富な職員が一緒に行動して利用者との良好な関係構築が出来るように工夫し、職員の離職防止に努めて、利用者が馴染みの管理者、職員の支援を受けられるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	19歳から70歳代の職員まで一人ひとりの能力を十分発揮して勤務している。運営者は職員の意見を尊重し、社会参加なども自由にできるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者一人ひとりを尊重した言葉づかいや態度に気を付けるよう会議や日々の提供場面で啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊富な職員が若い職員へ日々の提供場面で共に働きながら指導できるような体制がとられており、内部研修では口腔ケアについての講習会が実施されている。外部研修も5月、6月に予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は地域のグループホーム協議会の研修会へ参加している。管理者、職員の参加も今後予定している。</p>	○	<p>職員のグループホーム協議会研修会参加の機会を多くして相互訪問活動を通じたサービスの質の向上への取り組みが求められる。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅や病院、施設など利用希望者の生活場所を訪ねて、本人、家族、医療関係者と面談して状況把握に努め、全職員へ周知している。場合によっては体験入所から徐々に馴染んで入所する利用者もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食材の下準備や菜園での野菜作りなど得意とする利用者から学びながら共に支えあう関係を築いている。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>過去の生活歴や家族からの情報を基に一人ひとりの出来ること、出来そうなことを自由に発揮できるように支援し、本人の思いや希望を出来る限り優先して支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時の家族との話し合いを基に、計画作成担当者と職員で十分に検討しながら個々に合った介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>カンファレンス時に評価を行い、必要に応じて計画の見直しをしている。計画の変更時には、本人や家族の意見や希望を聞き行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年隣接して開設した通所介護利用者と一緒に行事開催やボランティア(プロのピアノ演奏)訪問などに地域住民を招くなど状況に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしている。主治医との連絡を密にし、定期的に往診を受けている。急変時など必要に応じていつでも診療が受けられる体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化した利用者2名を家族の意向を確認しながら、医師、看護師、職員間での話し合いを繰り返して終末に向けた方針を共有している。また、状況変化に応じて医師の往診、訪問看護ステーションから看護師派遣を受ける体制を整えて対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し言葉遣いに気をつけている。また、個人情報の取り扱いには十分に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の基本的な流れはあるが、散歩、入浴など一人ひとりの「その日」したいことを把握し、利用者の希望を取りいれている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に楽しみながら食事をし、準備や後片付けなども個々の能力に応じて職員と共に行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については無理強いせず本人の希望を取り入れている。拒否される方については、声かけやタイミングを考えながら入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、犬の散歩など希望にそって対応している。ボランティアによる器楽「プロのピアノ生演奏」には入居者全員が感銘を受け「次の機会に又・・・」の要望があり計画を予定している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の会話の中で外出希望を察知して買い物などに外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する利用者については家族の了解をとって探知機を使用しており、原則として施錠はしていない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の基、定期的に防火訓練を実施している。「防火管理者」の資格を有する職員により各器具の点検をしている。また、緊急連絡などの組織表も整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの主食、副食の摂取量を毎日記録しており、水分補給及び栄養バランスなどに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には数人で座れるソファを配置、また、庭の芝生には屋外用のテーブル、椅子を配置、利用者はそれぞれに自由に過ごしている。不快な音などはなく、居間、居室には適度な採光があり快適である。玄関や建物の周りには種々の花が植えられ季節感があふれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅時からの馴染みの品物や家具などが持ち込まれて個性的で居心地の良い居室になっている。</p>		